１　調　査　事　件

民生福祉、保健行政及び教育行政の充実について

２　調　査　概　要

⑴　甲府市（人口 186,433人）

ア　おしろらんど（甲府市子ども屋内運動遊び場）について

甲府市は、子どもたちの運動能力が全国や県の平均値を下回る状況であったことから、平成29年に子どもの発育発達学専門の現山梨大学理事・副学長の中村和彦氏と株式会社ボーネルンドを含む遊びや運動に関わる民間企業とともに、子どもの運動習慣データを基に、ＩｏＴを活用したスマート運動教育モデルの実現に向けた実証事業に関わることとなった。実証事業では、子どもの運動能力の向上に資する36種類の基本的な動きの出現種類や回数は、子どもの興味や関心を引き出す状況下において、運動遊びの先導役となるプレイリーダーが存在することでより向上し、運動遊びの環境が整った場所ではさらに有意に出現するとの結果が得られたことから、プレイリーダーの幅広い育成と遊び環境の必要性を確認し、屋内遊び場の設置に向けた検討が始まった。

まずは、市内保育士や幼稚園教諭、小学校教諭などを対象とした運動遊びプレイリーダー研修会を行い、受講者自らがそれぞれの現場でプレイリーダーとなって研修内容を実践することにより、子どもの体を動かすことが楽しい、心地いいという気持ちを高め、自発的に運動する機会を増加させ運動能力向上に繋げることを目指した。また並行して、甲府市では令和２年に「こども輝くまちをつくる」をスローガンとして「子ども・子育て支援計画」を策定するとともに、「甲府市子ども未来応援条例」を制定した。これらの取組を通じて、甲府市全体で子どもを元気に育てるための運動遊び場の環境整備に向けた流れを加速させることができ、令和３年４月に甲府駅から徒歩10分程度のまちの中心地に、甲府市子ども屋内運動遊び場「おしろらんど」を開館した。

本施設は、民間会社の社屋１階の空きスペースとなっていた場所に設置され、学生アルバイトを含む17人体制で甲府市が運営を行っている。利用対象者は小学生以下の子ども（１～12歳）とその保護者、または平日に限り子ども10人以上とその保護者等で構成する団体で、利用時間は１クール90分入れ替え制で４クールに分かれており、各クール終了後に、換気、清掃、片づけ等を行っている。利用料金について子どもは１クール300円、大人は１日200円となっており、延長する場合は子どもに係る

料金のみ追加となる。施設の構成としては、子どもの成長に必要な36種類の基本動作を遊びながら自然と身につけることができるアクティブエリア、おままごと遊びや組み立て遊びを通じて、想像力や社会性を育むことができるロールプレイエリア、授乳室を完備した広々とした空間を確保し、子どもの五感を刺激し発達を促すことができるベビーエリアがある。施設内には遊具の遊び方や効能についての説明が掲示されており、年齢別、機能別に空間がゾーニングされていることで安全性の確保が図られている。デザインの面では、甲府城の石垣やお堀を模したクライミングウォール付きボールプールや、特産品であるブドウやイチゴをはじめ、盆地や富士山など甲府市の自然豊かな風景を取り入れることで、郷土愛が感じられる空間となっており、雨天時も子どもたちが思い切り遊ぶことができる場所になっている。

新型コロナウイルス感染拡大防止対策としては、①定員１クール当たり75組150名を35組70名程度にする利用人数の制限、②30～40分で室内空気が入れ替わる常時換気、③マスク着用の徹底、④入館時のサーマルカメラによる検温の実施、⑤館内各所のアルコール消毒液の設置、入退館時及び定期的な手指消毒の励行、遊具の定期消毒、⑥スタッフの体調管理の徹底、⑦体調不良時や陽性者との濃厚接触の疑いがある際の利用自粛のお願いを行っている。

利用状況としては、コロナ禍においても利用者は２万7,000人を超え、アンケート調査の結果では天気や気温を気にせずに遊べる、遊び方を教えてくれるスタッフがいるおかげで子どもが飽きることなく楽しめるといった声が寄せられている。また、市内外の幼稚園、認定こども園、保育園による団体利用も行われている。

本施設の設置・運営事業については国の地方創成推進交付金が採択され、令和２年から令和４年までの３年間、２分の１が補助対象となっている。なお、令和３年度以降のランニングコストは、運営費として施設の賃借料を含め、人件費、維持管理費等は4,500万円程度を見込んでいる。

また、本施設は地元商店街とも連携しており、施設を利用した当日の領収書を対象店舗に持参すると、割引が受けられるなど、地域との関わりによる中心街のにぎわい創出の取組も始まっている。

今後の課題としては、利用者増加による遊具の劣化への対応、安定的な運営のためのスタッフの確保が挙げられ、引き続きプレイリーダーの研修に取り組むこととしている。

⑵　岡谷市（人口 47,035人）

ア　子育て支援館「こどものくに」について

岡谷市は、子育て家庭の孤立を防ぎ、親子が気軽に集い、子育てに関わる情報が得られ、仲間づくりやグループ活動、育児に関わる様々な相談ができる場として、平成15年３月に商業施設イルフプラザの４階に「子育て支援館こどものくに」を開館した。

本施設の整備に至った経緯として、この建物自体は、平成９年に中心市街地活性化のため、市街地再開発事業により商業拠点施設として整備されたが、キーテナントであるおかや東急百貨店が長引く景気の低迷により平成14年４月に撤退することとなった。その後、市民や各種団体の意見、岡谷市生涯学習・福祉等施設懇話会の提言を踏まえ、回遊性と集客性を高め、賑わいの創出を図るため、１、２階を商業活性化センター、３、４階は主に生涯学習活動センター（３階：生涯学習館、４階：子育て支援館）、また、４階には一部飲食店が出店する商業と公共施設を複合した施設「イルフプラザ」として整備を行った。

本施設は保育士６人、栄養士１人、看護士１人の８人体制で運営を行っており、利用対象者は０～３歳の子どもとその保護者等であり、兄弟がいる場合、就学前であれば一緒に入館できる。入館料は無料だが、登録カード代として年に１回200円を徴収している。施設面積は1,130㎡（その内、遊びのスペース753㎡）で、施設構成としてはブランコや滑り台など遊具を設置しているあそびの広場を中心に、赤ちゃんが安心して遊べるはいはいコーナー、おひるねコーナー、絵本コーナー、食事コーナー（現在は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため使用を一部制限）、身長・体重を測ることができる計測コーナーなどがある。施設内には市内の子育て関連施設の紹介や月例別あそびの紹介などが掲示してあり、子どもと来館した保護者が育児に関する情報を得やすいようにしている。また、１日２回親子で体操やふれあい遊びを楽しむわくわくタイムというイベントを行っており、ベビーマッサージや工作などを月に１回行っている。そのほか、予約制で講師によるヨガやフラダンスなど親子で楽しむ講座や、栄養士による食事講座など親を対象とした講座なども行っている。また、本施設は託児スペースとしての機能も備えており子どもと少し離れて、スタッフがアドバイザーとして参加しながら子育て中の母親同士が会話するなどリフレッシュできる機会を設けている。また、育児談話室の維持・管理も行っており、親子のサークル活動やグループ活動の際に利用することができる。

施設の利用案内については、ホームページや広報紙への掲載に加え、出生届の提出時にも案内している。利用状況としては、新型コロナウイルス感染症の影響が広がる以前は年間４万人を超えていたが、令和２年度はコロナ禍による休館や豪雨災害の影響で２万2,557人だった。利用者の居住地の割合としては岡谷市在住者が40％、近隣市町村が46％、その他県内10％、県外４％となっている。

現在行っている取組として、コロナ禍で外出を控える子育て家庭の孤立を防ぐため、人数制限等を行うことによりなるべく休館しないように努めながら、令和３年度は、コロナ禍で不安やストレスを抱えながら育児をしている親の不安を解消するため、心理相談員の相談回数を増やすとともに、相談が多い内容についてアドバイスを掲載したチラシを来館者に配布する事業を行っている。

今後の課題としては、施設の完成から既に18年が経過していることから、出入口や水回りの整備、新型コロナウイルス感染症対策として換気のしやすい環境づくりなど、施設整備の充実が挙げられる。また、市内の公私立保育園や認定こども園、子育て支援センターとの連携、母親に対するリフレッシュ機会の充実などにより一層フォローを強化していく必要がある。